

預金の積立感覚ではじめられる「積立投資」とは

みなさんは、どのようにしてお金を増やそうと考えていますか。

超低金利時代の今、銀行預金で資産を増やすことはほとんど期待できませんが、とはいえ投資と聞くとリスクが高いイメージもあります。しかし、ファイナンシャルプランナーの井澤江美さんは、「分散投資」をすれば低リスクで資産運用をすることも可能になると言います。

「金融商品には、株式投資やFX等の高リスクで高収益の可能性のあるものから、預金のような安全だけれど低利回りのもの、そしてその中間ともいえる債券(国債・社債等)等、さまざまな種類があります。このうち投資する商品をひとつやふたつに絞ってしまうと、その市場価格が下落した場合に損失をカバーすることが難しくなります。しかし、多種多様な金融商品に分散投資すれば、ある商品が下落してもそのほかの商品でカバーでき、全体のリスクを低く抑えることができるのです」(井澤さん)

分散投資にはさまざまな方法がありますが、投資初心者におすすめなもののひとつが「インデックスファンド」だと言います。

インデックスとは「指数」という意味で、株価指数や債券指数のこと。よく耳にする「日経平均」や「TOPIX」もインデックスのひとつで、インデックスファンドとはこうしたインデックスに連動する投資信託のことです。インデックスファンドの対象となる代表的なインデックスには、次の6種類があります。

1. **国内株式指数(TOPIX)**: 東証一部市場に上場する日本の優良企業約2100社の株価指数。
2. **先進国株式指数**: アメリカ、ドイツ、イギリス等の先進国に本社を置く企業約1300社の株価指数。
3. **新興国株式指数**: 中国やインド、新興国に本社のある優良企業約930社の株価指数。
4. **国内債券指数**: 日本の国債・社債約800銘柄の債券指数。
5. **先進国債券指数**: アメリカ、ドイツ、イギリス等の国債・社債約700銘柄の債券指数。
6. **新興国債券指数**: メキシコ、ブラジル、インドネシア等の新興国の国債・社債約200銘柄の債券指数。

※上記の銘柄数は、三菱UFJ国際投信eMAXISシリーズの例です。

例えば1のインデックスファンドを1本保有すれば、東証一部の上場企業約2100社の株をすべて買うことができます。2～6のインデックスファンドも同様で、1～6のインデックスファンドをすべて購入すると、世界中の優良企業約4300社の株と、世界中の国債・社債約1700銘柄に同時に投資することができる仕組みです。

「これら6つのインデックスファンドすべてが買えるバランス型のインデックスファンド(6資産分散インデックスファンド)がおすすめです」(井澤さん)

「バランス型のインデックスファンドは、日本市場だけでなく、先進国や新興国の市場にも目を向けた運用ができます。また、不況に弱い株式だけでなく、不況に強い債券も同時に購入することでバランスが取れます。1本保有するだけで全世界の株式や国債・社債に分散投資でき、世界経済の成長に合わせて資産を構築できるので、赤ちゃんからおじいさん、おばあさんになるまで末永く持っていたいファンドのひとつだと考えています」(井澤さん)

世界中の優良企業と国債・社債に投資するとなると、資金がかかりそうと思われた人もいるかもしれませんが、しかし、バランス型のインデックスファンドは少額から投資することができるため、「積立投資」に向いているといえます。

積立投資は、毎月少額ずつ積み立てて行う投資のことで、まとまった資金がなくても始められる点が魅力です。金融機関によっては100円から投資できるものもあります。短期ではリターンを得にくい方法ですが、値動きが不調なときも焦らずにコツコツ続けて、気長に長期運用することで大きな成果を得ることができます。

バランス型のインデックスファンドの積立投資なら、定期預金の積立のような感覚で少額ずつをコツコツ積み立てるだけで、世界中の優良企業や国債に投資ができて賢く資産運用ができます。老後の資産形成の強い味方として、ぜひチェックしてみてください。

監修者 井澤江美さん

年間1000回のセミナー、年間1万世帯の家計相談を担当する「家計の総合相談センター」代表取締役。ファイナンシャルプランナー(FP)歴30年の人気ベテランFP。マネーリテラシー研究所代表取締役。CFP認定者、1級FP技能士、MBA。著書に『行列のできる人気女性FPが教えるお金を貯める 守る 増やす 超正解30』(東洋経済新報社)がある。

